



①

郵便物の取扱量は戦後の経済成長に伴って飛躍的に伸び、人手処理での限界に近づいていたことから、郵政省では郵便仕分け業務の機械化を検討していました。東芝ではそれを受けて1965年（昭和40年）にプロジェクトを立ち上げ、郵便局内の作業を系統的に分析することから着手し、翌年に制限手書き数字を読取る最初の試作機を製作し、1967年に世界初の手書き文字読取試作機TR-2型を完成させました。

自由手書きでは、筆記用具、字の大きさと位置、線の太さと濃度など千差万別です。そこで自由手書き数字認識では、「並列ペナルティ・オートマトン方式」と呼ばれる方法により、全国から集めた30万字にも及ぶサンプルを使って文字ストロークの接続関係、位置関係などをルール化して、筆記者や書体によるバリエーションを吸収し高い認識率を実現しました。この方式はその後、「輪郭構造マッチング法」へと改良され、現在の技術へとつながっています。

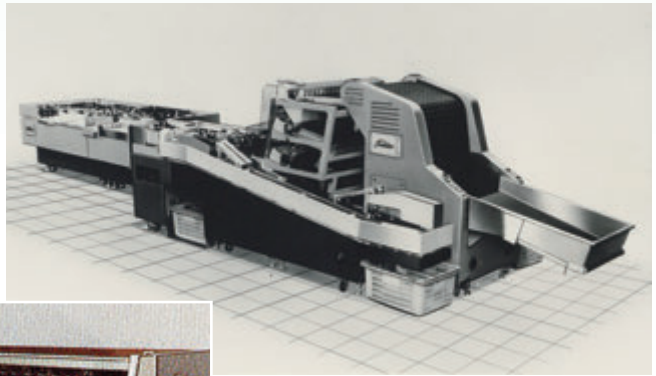
読取区分機実用化と並行して1967年には世界初の切手検出方式による郵便物自動取揃挿印機、翌年には活字印刷数字を読取る読取区分機が完成し、TR-2型の実用機であるTR-3型（区分ポケット50口）とTR-4型（区分ポケット100口）とともに、1968年7月1日の郵便番号制度発足の日に、東京中央郵便局で一般に公開されました。

これら一連の装置の実用化は、従来人手によって行われていた郵便物業務の大幅な効率改善を成し遂げるとともに、郵便、駅、銀行などの省力化機器開発の先駆けとなり高度情報社会の礎となりました。TR-3型（区分ポケット50口）は、現在、郵政博物館に保存されています。

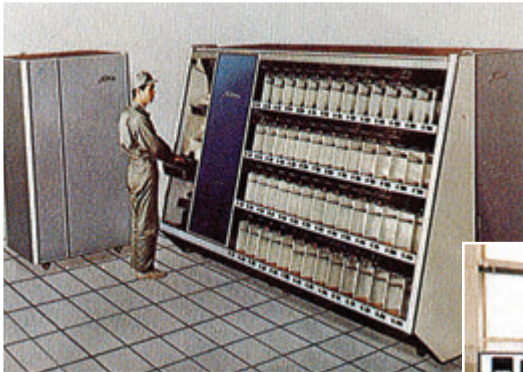
- ☆顕彰先 : 株式会社東芝、郵政博物館
- ☆所在地 : 〒105-8001 東京都港区芝浦1-1-1（株式会社東芝）
〒131-8139 東京都墨田区押上1-1-2 東京スカイツリータウン・ソラマチ9階（郵政博物館）
- ☆ホームページ : <http://www.toshiba.co.jp/>（東芝）
<http://www.postalmuseum.jp/>（郵政博物館）
- ☆アクセス（最寄駅）: JR山手線・京浜東北線 浜松町駅 徒歩5分（東芝）
東京メトロ半蔵門線・都営浅草線・京成線・京急線 押上駅または東武スカイツリーライン東京スカイツリー駅下車（郵政博物館）



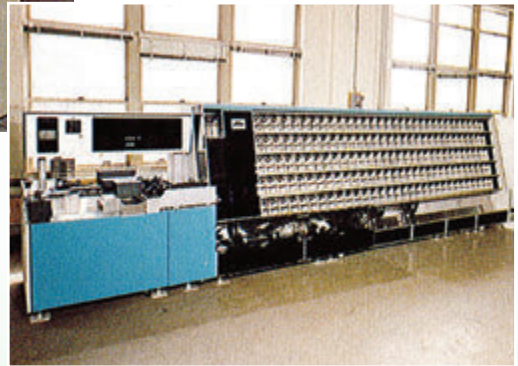
②



③



④



⑤

(写真提供：株式会社東芝)

- ① TR-2 型
- ② 郵便番号発足の日
- ③ 郵便物自動取揃押印機
- ④ TR-3 型
- ⑤ 活字印刷数字用読取区分機